おしゃれなワクワク農村へ

令和４年度

施政方針

2月15日、第122回丹波篠山市議会弥生会議で酒井市長が示した本年度の施政方針の概要を紹介します。

問い合わせ　秘書課☎552―5109

©野瀬勝一

市長　酒井（さかい）　隆明（たかあき）

丹波篠山市は、魅力あるおしゃれなまちとして注目を集めるようになり、また、コロナ禍のなか、農村回帰・田園回帰の流れにあります。これを生かし、これまでの定住促進や子育て施策に加え、関係人口の取り組みを始めます。

そして、「ワクワク農村未来プラン」を全市的に展開し、集落の維持・活性化を図り、日本の農村社会をリードする丹波篠山市を未来につなげることをめざします。

また、医療と財政再建という大きな課題は、改善があったものの、形を変えながら新たな課題に向き合う局面となっています。市として望ましい医療体制をめざすとともに、篠山再生が達成できたと胸を張れるように、新たな計画を策定し、取り組みを進めます。

さらに、苦労しながら取り組んでいる「桑原地区の公害問題」「ホテルルートインの建設計画」の解決、新しい取り組みとして進めている「農都のめぐみ米」「農都水路（ヨシキモデル）」「丹波篠山の家」などを進めていきます。

アフターコロナの農村回帰の流れ

丹波篠山市は京阪神に比較的近い距離にありながら、自然豊かな農村環境があり、快適で豊かな生活が営めることから、自然の中での子育て、起業などに関心のある若い世代の移住希望者が多くなっています。

令和3年度の移住相談件数はコロナ禍前の約3倍となっており、自治会などと連携して移住促進や空き家の活用に取り組みます。

ワクワク農村未来プランの推進

地域で知恵を出しあい新しいアイデアで活性化をめざす「ワクワク農村未来プラン」の取り組みを支援します。

関係人口案内所の開設

定住人口でも交流人口でもない、地域や地域の人々とさまざまな形で関わる「関係人口」と呼ばれる人材が地域づくりの担い手となることが期待されています。それは、二地域居住など定住に近いものから、農業ボランティアやふるさと応援団など、観光・交流に近いものまであります。

そこで、課題解決につながる活動に取り組もうとする人材を育み地域とのマッチングを支援する「関係人口案内所」を開設します。

子育ていちばん

マイ助産師、入院医療費の無償化、赤ちゃんがきた、児童発達支援センター、おいでよささっ子遊具設置など、子育て支援施策を一元化する部署を設け、支援施策のさらなる充実に取り組むとともに、病児保育、待機児童の解消などに取り組みます。

新たな地域医療体制に向けて

丹波医療圏・丹波篠山市の地域医療の現状などについて整理・分析を行うとともに、兵庫医科大学ささやま医療センターと医療法人社団紀洋会岡本病院を対象として、市として望ましい医療提供体制の方向性・対応などの案について検討を行い、丹波篠山市の医療体制づくりを進めていきます。

篠山再生計画の推進

市の財政状況は平成20年に策定した篠山再生計画に基づき、行財政改革に取り組み、令和2年度決算において収支のバランスが取れました。

しかし、令和3年度から5年度まで再び収支バランスが崩れる見通しです。財政運営の指針となる新たな計画を策定し、健全な財政運営が達成できるよう取り組みます。

日本農業遺産の推進

日本農業遺産を生かしたまちづくり事業助成金を創設し、黒大豆栽培に関する技術の継承や歴史調査、農業生物多様性、灰小屋の修復などの市民活動に対して10万円を上限に助成します。

農都のめぐみ米

農薬・化学肥料を5割以上減らした上で、生きものへの配慮や自然環境への負荷軽減に配慮した米づくり「農都のめぐみ米」に取り組む農業者に対し10㌃あたり750円を助成する制度を創設し、栽培面積をさらに広げていきます。

学校給食では、令和3年12月から年間を通じて全量使用しています。

環境みらい都市宣言へ

丹波篠山にふさわしい環境がどのようなものか、市の環境施策の大きな方針として掲げます。

買い物弱者支援

食料品や日用品の個別配達をしている小規模事業者に対し、配達に係る経費の一部を支援します。利用者は市内在住で、75歳以上のみの世帯、運転免許証を持たない世帯などが対象で、支援額は購入額が1回につき2，000円以上の場合で、1世帯1回の配達につき200円とします。

市内高校の活性化

さらに市を挙げて市内3高校を盛り上げていくため、「市内高等学校活性化市民会（仮称）」を設置し、PTAや自治会長会、まちづくり協議会と連携して、魅力ある高校づくりのための支援策・活性化策を検討します。

男女共同参画センターの開設
10月中の開設に向け準備を進めます。

ふるさと応援寄付
新たな返礼品の提案やガバメントクラウドファンディングの実施により、寄付額4億円をめざします。

通学路の安全対策と道路整備
各地の通学路などの安全対策を進めます。「味間バイパス」の早期完成、「黒田バイパス」の早期事業着手、「飛雲山峠」改修の事業促進を行います。また、「新城東トンネル」の事業化に向けて、兵庫県に対して要望を引き続き行っていきます。

篠山口駅周辺整備・活性化
活性化会議などを開催し、丹波篠山の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいのある駅周辺の創出に向けて取り組みます。

JR篠山口駅のにぎわいをめざして
駅の東側、西側、自由通路について、それぞれににぎわいをめざし取り組みます。

18歳(高校生)までの医療費助成
新たに、高校生世代の16歳から18歳までの児童に対して、所得制限を設けず入院医療費の助成を拡大実施します。

公共施設のオンライン予約
公民館、体育施設などの公共施設について、オンラインで利用状況を確認したり、予約できたりするシステムを導入します。

自然環境・生物多様性
「クリーンリーン作戦」「水辺のエコアップ作戦」、これらの手引きを作成・配布します。また、地域の自然環境の保全・再生に役立つ活動に必要な資材を希望者に配布します。

有機農業の推進
国の方針に基づき有機農業の普及について検討するため、農業者などを交えた「有機農業検討会(仮称)」を設置し、丹波篠山らしい有機農業のあり方を検討していきます。
農林水産省の新たな事業として提案されている「オーガニックビレッジ(仮称)」の取り組みが始められるように検討を進めます。

道の駅整備
設置場所は、こんだ薬師温泉ぬくもりの郷を予定し、国・県と協議を重ね、道の駅の登録をめざします。

市内企業の振興と企業誘致
企業誘致については、農工団地篠山中央地区全2区画への企業進出が進んでいます。株式会社岡本銘木店が進出し、加藤産業株式会社が立地を計画しています。

芸術家・工芸家への支援
市内には、陶芸、木工、ガラス、染色、革、彫金など数多くの工房が誕生しており、オープン工房や工芸家が日々の活動を発信できる仕組みについて検討し、支援します。

丹波篠山の家
丹波篠山の気候風土・文化に合った住まいづくりを進め、普及啓発に努めます。

コロナ禍で従来できていた学びや行事の縮小・変更を余儀なくされています。学校園では子どもたちの不安や悩みが増えているのではないか、社会教育においてはこれまで大事に守ってきた文化や芸術・スポーツ、行事の継続が心配されます。
コロナ対策を取りながら、学校園や社会に学びや文化の充実した「知の森」「文化の森」を継続させていきます。
教育委員会では機構改革を行い「学校教育部」「社会教育部」「こども未来部」の3部体制に再編し、教育の充実を図っていきます。「こども未来部」においては、これまで市長部局と教育委員会部局で取り組んできた子育て支援施策を総合的かつ一体的に進めていきます。

病児保育の充実
病児保育室「にこにこ」は開始時刻を午前8時30分から午前8時とし、終了時刻を午後5時から午後5時15分に延長します。

子どもたちの可能性を引き出す
ICT環境の活用や少人数を生かした「個別最適な学び」と、探究的な学習や体験による「協働的な学び」で、丹波篠山の良さを生かした、子どもたちが未来を生き抜く力を身に付ける教育を進めます。

キャリア教育の充実
本市が誇る「ふるさと教育」に社会的・職業的自立に向け必要となる能力や態度を育てる「キャリア教育」の視点を加え、故郷に愛着を持ち、自分らしく生きることをねらいとした教育を進めます。
キャリア形成支援事業「夢プラン」は、市内中学2年生を対象に実施します。

学習環境の整備
篠山中学校の大規模改修を行うとともに、城東地区のスクールバス1台を更新します。

中高連携の推進
市内3高校への進学を推進するため、「オープンハイスクール」の積極的な参加を呼び掛けるほか、各校の魅力を中学生や保護者に周知していきます。

市史編さんの推進
丹波篠山市史編さん基本方針に基づき、編さん委員会や専門委員会、神戸大学と連携し、専門部会を立ち上げ、分野ごとの調査研究を進めます。

歴史資産を活かしたまちづくり
史跡篠山城跡では「篠山城跡整備基本計画」に基づき、二の丸南西の高石垣の修理工事を完成させます。

学校給食の充実と食育の推進
日本一の学校給食献立をまとめた「丹波篠山の学校給食」の概要版を活用して、学校給食の歴史、地元特産食材、地元生産者を紹介し、児童生徒への地域、食文化への関心を高めていきます。

3歳児完全給食実施
公立保育園およびこども園の3歳児について、令和3年度まで、副食(おかず)のみの提供となっていますが、主食であるご飯も提供し完全給食を実施します。

今田こども園(仮称)の検討
土砂災害の警戒区域にある今田幼稚園、今田保育園について、園舎の老朽化が進んでいることも合わせ、安全安心な環境整備を最優先にあり方を検討します。

おいでよささっ子遊具設置
子育て世帯の親子が遊べる環境を整備するため、令和4年度は、市内4カ所で遊具整備を進めます。

「知の森」「文化の森」の発展

令和4年度

教育方針

2月15日、第122回丹波篠山市議会弥生会議で丹後教育長が示した本年度の教育方針の概要を紹介します。

問い合わせ　教育総務課☎552―5709

令和4年度に取り組む主な事業を紹介します

当初予算

令和４年度は「おしゃれなワクワク農村へ」をキャッチフレーズに、農の都、自然景観、歴史ある町並みや文化など、丹波篠山市の魅力ある資源を生かした「おしゃれなまち」づくりを進めるとともに、集落の維持という課題解決に向けた地域活性化への取り組みとして「ワクワク農村未来プラン」の推進を支援します。

さらに、子育て支援や高齢者福祉の充実、地域医療や教育環境の整備など、市民一人ひとりが安心して幸せに暮らせるまちをめざした予算としています。

問い合わせ　財政課☎552-5114

令和４年度の象徴的事業　主な事業

シンボル事業・重要課題

ワクワク農村未来プランの推進（4,100 千円）

市内各集落において少子高齢化が進み、さまざまな課題を抱える中で、この課題を解決しワクワクするような丹波篠山市をめざすため、令和３年度に集落づくりの手引書である「ワクワク農村未来プラン」を策定しました。

令和４年度は、本プランの啓発と推進のために指定したモデル地区に対する取り組みを支援します。また、コーディネーターとして地域再生協働員を設置します。

関係人口の創出拡大（5,420 千円）

地域の元気度を表すバロメーターとして、最近では地域や地域の人々とさまざまな形で関わる人々に注目が集まっています。このような地域と多様に関わり合う人々のことを「関係人口」といいます。

人口減少や高齢化により地域づくりの担い手不足という課題に直面している地方圏では、この関係人口と呼ばれる人材が地域づくりの担い手となることを期待されており、その新規獲得や定着化、支援のあり方について調査や検討を実施します。

ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動の推進（77,426 千円）

定住促進策として、空き家バンクや暮らし案内所の運営、移住支援金の交付などを行ってきました。令和４年度は、JR西日本と沿線自治体との共同プロジェクト「おためし地方暮らし」事業として、電車の中吊り広告や駅ポスター、車内モニターによるPR動画などで「通勤圏としての丹波篠山市」を京阪神エリアのJR利用者に広報します。そして、移住先としての丹波篠山市をアピールし、ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動を推進します。

環境みらい都市宣言へ（400 千円）

昨年「食品ロスをなくそう！」と取り組まれた多紀小学校５年生の皆さん

令和４年１月に市議会とともに「丹波篠山市気候非常事態宣言」を表明し、2050年までのゼロカーボンの実現に向けて積極的に地球温暖化対策に取り組んでいます。

世界や国の環境政策が社会経済情勢の影響などを受けて目まぐるしく変化している中で、丹波篠山にふさわしい環境を未来につないでいくため、市の環境施策の大きな方針となる「丹波篠山市環境みらい都市宣言（仮称）」の表明に向けて検討します。宣言は市だけでなく、市民、団体、事業者など多様な主体が協働して「環境のまちづくり」を進めていくためのものとして、市環境審議会で内容を検討していただきます。

男女共同参画センターの設置（2,941 千円）

丹波篠山市は男女共同参画社会の実現のための施策に取り組んでいます。審議会の意見も踏まえ、市民の皆さんに親しまれる、気軽に立ち寄ることができる新たな男女共同参画センターの設置に向けて準備を進めます。

日本農業遺産の推進（4,125 千円）

丹波篠山の黒大豆栽培が「300年も前から何世代にもわたり独自の伝統技術の中で培われ、将来に向けて受け継がれるべき農業システムである」として、令和３年に日本農業遺産に認定されました。

栽培技術だけでなく、集落での助け合い、灰小屋のある農村景観、ため池・水路などの生物多様性も評価されたことから、この歴史や伝統、農村景観を継承していかなければなりません。令和４年度は、日本農業遺産を生かしたまちづくりに対する補助や地域活動の支援などを実施します。

市内高校の活性化（900 千円）

少子化に加え、市内県立高校３校への市内中学生の進学率が低下しています。令和３年度から、中学生に市内高校に目を向けていただこうと、市立中学校と市内高校の連携事業を進めてきました。

令和３年度には、通学環境の改善のために高校近辺にバス停を追加し路線バスルートの見直しを行うとともに、高校の魅力づくりの支援や地元進学を啓発するポスター掲示などを行いました。

令和４年度は、市内県立高校の特色ある独自の活動を支援し、進学したくなる学校づくりを支援します。

農都丹波篠山のブランドをより強固にする　主な事業

丹波篠山の農都創造

農都のめぐみ米の推進（10,082千円）

化学肥料や農薬の使用を兵庫県の慣行基準の２分の１以下に抑え、田んぼの中干しを遅らせることでオタマジャクシの成長を守るなど、自然環境や生きものに配慮した農法で栽培されたお米を「農都のめぐみ米」とし、市内の農業従事者の方々に栽培を呼び掛けています。農都のめぐみ米づくりのさらなる普及のために本事業の広報を行うとともに、助成制度を創設します。

魅力あふれる美しい丹波篠山を発信する　主な事業

丹波篠山の魅力向上

グリーンスローモビリティの導入（4,363千円）

令和３年度に篠山城跡大書院と河原町地区を結ぶグリーンスローモビリティの運用について社会実験を行いました。令和４年度から本格導入し、徒歩で移動するには少し距離のある観光資源を結ぶ、環境に配慮した低炭素型の移動手段として運用します。

丹波篠山の家の普及促進（12,517千円）

丹波篠山の里山・田園と調和し、快適で長く住み続けられる木造住宅の普及を促進するために、一定の要件を満たした木造住宅を「丹波篠山の家」と認定し、建築費用の一部を助成しています。

また、令和３年度に竣工したモデルハウスを活用し市内工務店が行う現地案内会などのPRイベントに対して補助金を交付するなど、丹波篠山の家のPRを強化します。

その他

過疎対策

４月から旧篠山町地区が過疎地域に指定されることとなりました。指定されることで、持続可能な地域社会の形成と地域活力のさらなる向上のために、過疎法に基づき国・県などから有利な資金手当てを受けることができるようになります。

丹波篠山の魅力的なまちづくりのために制度を活用し、過疎対策事業を実施します。

子育て・教育・福祉など、市民のくらしを守るための事業　主な事業

丹波篠山のくらし

地域医療のあり方の検討（13,200千円）

兵庫医科大学ささやま医療センター

令和２年度に市内の地域医療を支える兵庫医科大学ささやま医療センターと医療法人社団紀洋会岡本病院から、両病院を経営面で統合し市立病院化することで経営の安定化を図りたい旨の提案がありました。

令和３年度に、市内の医療状況について、市内医療圏域の将来予測や地域別・疾患別の医療動向、医療機関の利用状況調査、ささやま医療センターと岡本病院の経営状況調査や指標分析を行いました。

令和４年度は、調査分析で得られた結果をもとに両病院と協議を進めながら、地域医療体制の方向性などについてさらなる検討を行います。

高校生等医療費助成事業（1,434千円）

これまで、０歳から小学３年生までの通院・入院、小学４年生から中学３年生までの入院にかかる医療費の無償化を実施してきました。４月からは新たに高校生などへの入院医療費について助成を行います。

高齢者等の買い物支援（2,860千円）

過疎化や少子高齢化に伴う小売店の撤退や出店エリアの集中、公共交通機関の廃止や衰退に伴い、食料品や日用品の調達に支障をきたしている高齢者などが今後増加することが予想されます。食料品や日用品を配達する事業者に対して、１戸配達１回2,000円以上の買い物につき200円を支援することで、個別配達サービスを運用しやすい環境を整えます。

おいでよささっ子遊具設置事業（21,092千円）

子育て世代の親子が気軽に出かけられて、子どもをのびのび遊ばせることができる環境を整備するために、屋外遊具を備えた遊び場を設置しています。

令和４年度は、岡野・日置・雲部・味間地区に遊具を設置します。

転入者おもてなし事業（1,215千円）

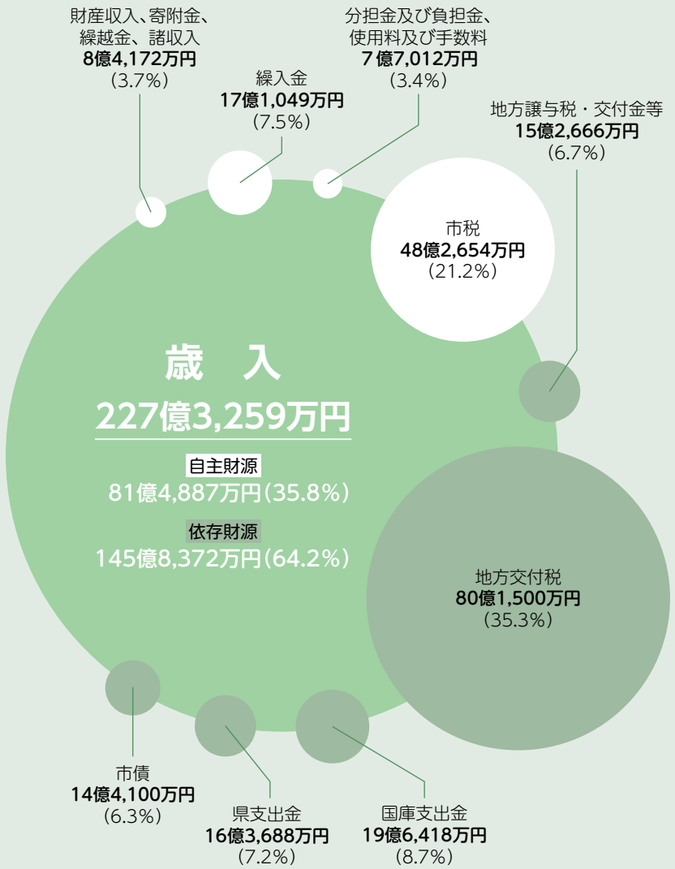
丹波篠山市への転入者に対し、市民課窓口での転入届出時に、丹波篠山産のお米とお茶の引換券をお渡しして歓迎します。また、見本として各種ごみ袋を１枚ずつお渡しします。

令和4年度

予算の概要をお知らせします

	前年度比
一般会計	227億3,259万円（　2.3%）
特別会計	105億6,099万円（△2.6%）
公営企業会計	82億2,143万円（△2.3%）

令和４年度の一般会計の予算規模は227億3,259万円。前年度と比較すると５億259万円（2.3%）の増額となりました。主な増額の要因は、大正ロマン館のリニューアル工事や田園交響ホールの舞台照明操作卓等改修などによる投資的経費１億3,242万円の増、会計年度任用職員の人数が増えたことによる人件費１億6,218万円の増、丹波篠山ふるさと応援寄附金事業で返礼品等が増える見込みなどによる物件費が１億8,885万円の増となっています。



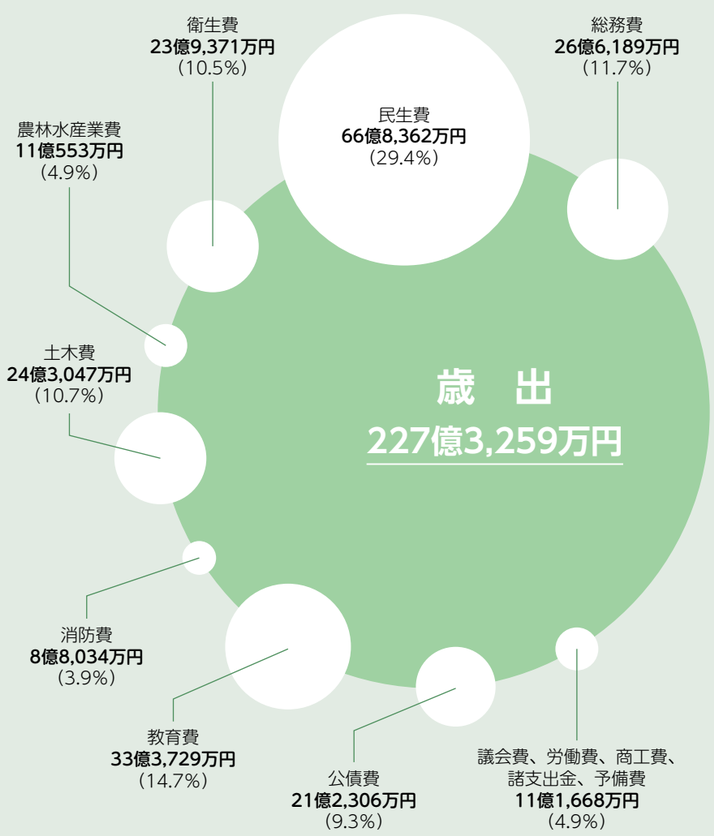
用語の解説

【歳入】

- **市税**
  市民の皆さんから納めていただくお金
- **地方譲与税**
  国の税金から、一定の基準で配分されるお金
- **地方交付税**
  地方自治体が一定水準の行政サービスを提供できるよう、国から交付されるお金
- **国庫・県支出金**
  市が行う仕事に対し、国や県から支給されるお金
- **繰入金**
  他の会計や基金（貯金）などから、資金を受け入れるときのお金
- **使用料及び手数料、諸収入など**
  公共施設の利用料、土地貸借料、預金利子などのお金

【歳出】

- **総務費**　行政全般の事務に使うお金
- **民生費**　福祉の増進に使うお金
- **衛生費**　市民の皆さんの健康づくりや、ごみ処理などに使うお金
- **公債費**　市の借金を返済するお金
- **諸支出金**　基金の積み立てに使うお金



財政指標で見る丹波篠山市の姿

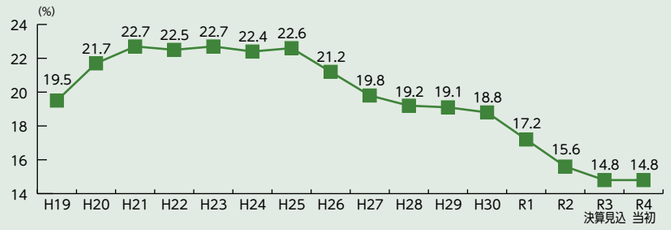
令和４年度　一般会計、特別会計、企業会計予算額

（単位：千円、%）

会　計　名	令和４年度当初予算額	令和３年度当初予算額	増減額	前年度対比
一　般　会　計	22,732,591	22,230,000	502,591	2.3
国民健康保険特別会計	4,990,752	5,176,079	△185,327	△3.6
事業勘定	4,773,952	4,946,237	△172,285	△3.5
直営診療所勘定	216,800	229,842	△13,042	△5.7
後期高齢者医療特別会計	708,920	688,097	20,823	3.0
介護保険特別会計	4,861,321	4,980,957	△119,636	△2.4
介護保険事業勘定	4,844,335	4,968,456	△124,121	△2.5
介護サービス事業勘定	16,986	12,501	4,485	35.9
特　別　会　計	10,560,993	10,845,133	△284,140	△2.6
水道事業会計	3,061,774	3,173,529	△111,755	△3.5
下水道事業会計	5,159,661	5,245,304	△85,643	△1.6
企　業　会　計	8,221,435	8,418,833	△197,398	△2.3
合　　計	41,515,019	41,493,966	21,053	0.1

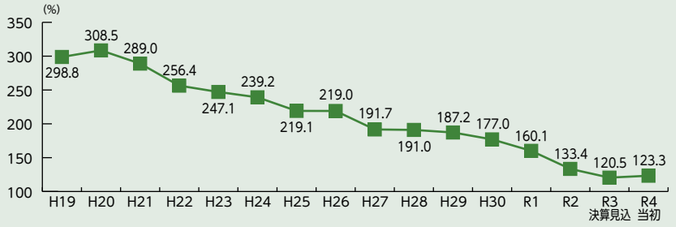
実質公債費比率

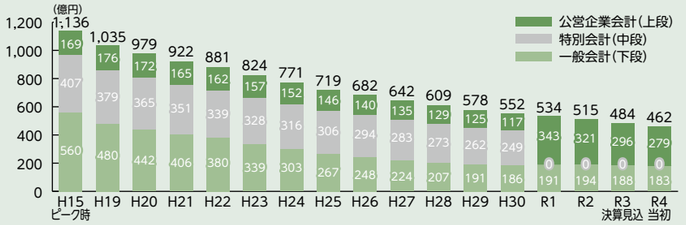
市の借入金の返済額の大きさを、市の財政規模に対する割合（３カ年平均）で表したものです。25％を超えると早期の健全化を求められます。



将来負担比率

市の財政規模に対する、将来支払う可能性がある負債の比率。350％以上で早期の健全化を求められます。



市債残高（全会計）

市債残高とは、建設事業を行うため、国や金融機関から借り入れ、今後負担する必要があるお金のことです。